

お祭りが始まります

国重要無形民俗文化財「角館祭りのやま行事」が、9月7日(水)～9日(金)に行われます。

本校では、9月2日(金)に「お祭り集会」と「曳山集会」を行い、全校生徒のお祭りへの参加・不参加、8日～9日に学習すべき事柄について確認しました。

◇お祭り集会 2校時

「お祭り集会」では、「お祭りに関するお話」として校長が話しました。

最初に、すでに学習しているかもしれませんが、お祭りがなぜ9月7日～9日に行われるようになったのかに言及しました。

ご存知のように、9月7日は神明社の宵宮、そして8日は神明社の本祭（神輿渡御祭みこしときよさいあるいは神輿神幸祭みこしんこうさい）、薬師堂の宵宮、9月9日が薬師堂の本祭（御輿渡御おんこしときよ）となっています。9

月にお祭りが行われる前までは、神明社のお祭りが6月16日、薬師堂のお祭りが12月7日にあったそうです。薬師堂のお祭りが冬だったので、この二つのお祭りを合体して9月7日～9日に行うということが、1732年(享保17年)の北家日記に書かれているそうです。



次に、どうすればお祭りの正責任者になることができるのか、についてお話ししました。

各丁内の曳山は丁内が主になっているところと、若者が主になっているところがあります。私の属している山根谷地町旭会は、若者が主として曳山を出している丁内で、毎月3日に「三日会」という会を設定し、丁内の会館に若者が集まり、そこでお祭りに関する研修やお互いの親睦を深めています。その

場所が中心となり、また丁内の皆さんの推薦もあり、正責任者が決まることとなります。交渉員や先導などは、正責任者の推薦で決まることとなります。いずれ、曳山に関して貢献した人でなければ、責任者を務めることはできないのです。生徒の皆さんは、成人したら各丁内の集まりを聞いて、この会に所属し、お祭りへの貢献をすることからはじめてほしいと思います。丁内によってしきたりがあると思いますので、地域の方からそのしきたり、習わしを聞くのも学習となるはずです。

次に、今回はお祭りの重要な役割を担う「張番」

についてお話しします。張番は今年度34か所に設けられています。一般社団法人角館町観光協会様から寄贈された「角館の祭典」復刻版によると張番について次のように解説されています。

○張番の使命及び役割(前出 p1)

張番は祭典中、丁内としての祭典行事を司る処で、祭典の進行について最高の権限と責任をもち年番長が責任者となる。

- 1 御神輿のお迎え 神明社8日、薬師堂9日
- 2 自丁内曳山への指示、連絡及び手配(食事、休息等)
- 3 他町内曳山への対応
- 4 丁内として行う催し物、舞台又雪洞提灯(ほんほりちょうちん)等の維持管理
- 5 露天等への対応
- 6 祭典行事の記録(催し物及び収支決算)

○曳山との対応(前出 p6～p11)

1から6に渡り細かく記載されています。交渉員が張番に来る際にどのようなあいさつ、そして曳山の状況はどうでなければいけないのか、事細かに記されています。

曳山の現在地について、どこからどこまでが曳山なのかについても記されています。昼は旗持ちの位置、旗持ちのおらない場合は引綱の先頭、夜は高張持ちの位置で。後ろは、曳山の後担木(うしろたぎ)についている人々の終わりをいいます。小学生や中学生が高張を持つ場合がありますが、向かい合った時に高張が交差することはあり得ないことなのだということが分かります。

まだまだ、曳山のしきたりについては、どんな曲を演奏するのか、踊り子はどんな服装で踊るのか等ありますが、地域の方々から聞いて、そして実際に現場で見て、感じ取ってほしいと思います。

生徒指導主事からお祭りについての留意事項がお話され、その後各丁内に分かれ、正副班長を決めました。

◇曳山集会 4校時

18丁内の責任者もしくは責任者から依頼された丁内の役付きの方が会議室に集まり、最初に校長が、今年度のお祭りについて生徒の動きを話しました。

昨年度同様、ふるさと教育の一番の機会であり、お祭りに参加する生徒は、丁内の曳山について3日間、きっちりとお祭りを行ってほしいし、生徒もそのために今日まで学習を続けています。

全校生徒296名のうち自丁内の曳山に参加する生徒は110名、丁外から参加する生徒は131名、踊り子お囃子で参加する生徒は6名、不参加の生徒

は49名です。不参加の生徒は8日、9日、自分の課題を追究するために、角館町を探索したり、学校で調べ物をしたりします。

次代の責任者を育てるつもりで、よろしくお願いしたい、とお話を終わりました。

その後、18丁内の各ブースに分かれて丁内の曳山の動きについて生徒たちは知りました。

丁内、丁外合わせて最高で44名、最小で3名のところがありました。中学生の曳き手は重要で、昼の運行については、中学生がいなければ動かない、ということもありますので、自分の曳山から離れることなく、しっかりと曳いてほしいと思います。



田沢湖駅伝に参加して

8月30日行われた田沢湖一周駅伝競走大会について、参加した選手が作文を書いてくれました。抜粋して紹介いたします。(〇数字は学年です。)

〇青山澗さん③

1位とは16秒差がついてしまった。この16秒は本来自分が縮めなければならぬはずなのに、縮められず、頑張ってくれた二年生に「自分のせいで負けた。ごめん、澗先輩」と言われ、とても申し訳なく思って辛く悔しかった。Sとは「絶対優勝しよう!」と約束し、Sのために頑張ってきたのに、2位しか取れず、一番悲しかった。でも、Aチームの全員が区間5位以内に入れたことは嬉しかった。練習でもっとスピードや体力をつけておけばよかったと後悔した。全県までの間にチーム全員が体力やスピードをつけ、全国の舞台に立ちたいと思った。

〇茂木里久さん③

私は、駅伝練習を通して自分が大きく成長できたと思います。最初は、自分で限界を決めて練習していました。自分の甘い考えでなかなかベストな走りができませんでした。そんなある日、練習後に井合先生に呼ばれて「お前は、自分に限界を決めて走っている。だから本番でいつも良い結果が出ないんだ。」と厳しい言葉を言われました。あのときは、びっくりして頭の整理ができませんでした。でも、井合先生の言葉がなかったら、自分はここまで変わることができなかったと思います。井合先生の言葉

は厳しい言葉でもあったし、自分が変わることがができる大きなきっかけにもなりました。この言葉は、これからの将来で絶対に忘れてはいけない言葉だと思います。きっかけを作ってくれた井合先生に感謝しています。

そして、3年間ずっと、ずっと、ずっと厳しく指導して下さった山口先生にも感謝しています。あいさつも練習に対する態度も全然だめだった私が、ここまで成長できたのは、1年生のときに、山口先生が全力で私を怒ってくれたからだと思います。あのときは、すごく嫌だったけれど今思うとあのとき山口先生が全力で怒ってくれて本当に、本当に良かったと思います。

最後に、三浦(教頭)先生や草薙先生は駅伝に対して熱い先生だと思いました。走り方、呼吸の仕方など技術をたくさん教えてくれました。教わったことをこれからの全県大会に生かしていきたいと思いました。駅伝練習を通して大きな壁を乗り越えた先に成長した自分がいるということが分かりました。駅伝をやって本当に良かったと思います。三浦先生、草薙先生にも本当に感謝でいっぱいです。ありがとうございました。

〇藤枝愛美さん③

私は今年は応援隊として大会に参加しました。昨年までは選手として走っていたから、今日一日変な感じがしました。レース中は、男子1、7区、女子2区しか応援できませんでしたが、感動しました。男子のスタートのピストルの音が聞こえて、1区の選手が走って来たとき、「田沢湖駅伝なんだ」と今さらながら実感しました。7区に立っていたとき、先頭の大曲の次に黄色のはちまきが見えて、近くにいたTさん、Hさんと叫びに似た応援になってしまいました。それぐらい興奮しました。しかも3位以下に結構差を付けていたので、皆すごいなあと思いました。女子はMが1位で来たのが見えて、「まさか」と思いました。今年も6位以内に入って全県に行ってほしいなあ、と思っていたので、1位と聞いてKさんと叫んでしまいました。自分が走った訳でもないのに、ものすごく嬉しくて、泣きそうになりました。角中の駅伝部で今まで頑張ってきて本当に良かったと思いました。山口先生にみんなが入部届けに「愛美先輩の分まで」と書いていたことを聞いて、私は幸せ者だなあと強く思いました。同時に、このメンバーで最後に走りたかったなあとも思いました。はやく膝を治したいです。1か月後には全県があります。ここまで来たら、最後の最後まで角中のサポートをしてレースを見たいと思って、マネージャーを続けたいと言いました。男女とも本当に頑張してほしいです。今回の大会では、みんなに感動を与えてもらえて、本当に感謝しています。

◎平成28年度 中仙招待卓球大会 男子 第3位

2勝3敗 9月3日

角館●1-3〇太田 角館●0-3〇神代

角館●2-3〇中仙 角館〇3-2●桧木内

角館〇3-1●豊成